

代表質問

6月定例会では、内田博長議員（鳥取県議会自由民主党）が、県行財政上の諸問題について、会派を代表して質問を行いました。

鳥取県議会自由民主党



内田 博長 議員
選挙区 日野郡

地方創生の環境整備

問 県は総合戦略を策定する市町村の自主性を尊重しながら、交付金獲得に協力すべきではないか。

答 策定の時期、執行時期それぞれに新型交付金獲得も含め、サポートする役目だ。経済の分析、農林水産業の振興策等実効性のあるデータ分析も含めてサポートし、策定段階、実行段階で支援する。

正規雇用1万人創出

問 知事のマニフェストの「正規

雇用1万人チャレンジ」は、各分野で雇用創出効果の見込まれる新たな施策を立案し、目標を達成していくのだと思うが、いかにして実現させていくのか伺う。

答 企業、農林水産業、医療健康関係なども含め、社会横断的な正規雇用1万人を推進する会議を立ち上げ、そのためのチャレンジプランを作っていく。調査しながら新年度の予算に合う形でチャレンジプランを取りまとめなければと考えている。

今後の農政のあり方

問 県農業活力増進プラン実現に向けて、全国のブランド産地に対抗する具体的な戦略を伺う。

答 2年連続特A米のきぬむすめ、和牛の白鵬85の3、新甘泉という名の梨など、今までとは異次元でブランド戦略を展開していく。あわせて地理的表示保護制度が始まり、福部のラッキョウの登録エントリーなど、この制度にもサポートする。

問 米の県下一律の作付配分方式を改め、適地適作の品質重視作付体系によって消費者ニーズに合った商品生産を目指すべき。

答 毎年転作など植え付け計画をまとめる中、道筋を考える必要がある。それぞれの適性に依拠してやっていくが、中山間地、高地の方がおいしい米がとれるという事実もあるので、今後も適正な配分を話し合っていく。

林業の振興

問 知事の選挙公約による木材流通量38万立米達成のため、林業作業員約360人増員が必要となるが、即戦力作業員の育成方法はどうにするのか。

答 素材業者の育成、メーカー支援のもと大型林業機械の研修を進めるなど、それぞれの森林組合が工夫しているのを支援する。

教育振興基本大綱

問 教育振興基本大綱策定に当たって、大学入学希望者学力テストの導入に向け、新たな高校教育のあり方を盛り込んでいく必要があるのではないか。

答（教育長） 入試制度の大きな転換に対応するため、課題の発見

に向けた主体的、共同的な学習を進めることが必要で、教員側の教科の枠を超えた総合的な力を身につけるとか、授業方法の工夫改善をするなど体制充実を図る。

問 新たな大学入試改革案は、大学側、高校教員、生徒の負担が増すのではという懸念が聞かれるが。

答（教育長） アクティブラーニング型の授業改革を目指して教職員研修や授業実践に取り組んでおり、これが文科省から示された方向性と軌を一にし、普段の授業で取り組んでいるため、生徒、教員側に過度の負担をかけない取り組みとなっている。

高齢者、ドライバー対策

問 今後認知症を含めた高齢者ドライバーの対策をどう拡充していくのか。

答（警察本部長） 運転免許取消し者への代替交通手段の確保や商店の割引など新たな支援策を展開中。また、高齢者の安全見守り活動や被害、加害両面での事故防止対策を展開するネットワークの構築を進める。さらに、警察職員の認知症に対する理解を深める取組みの充実強化を図る。